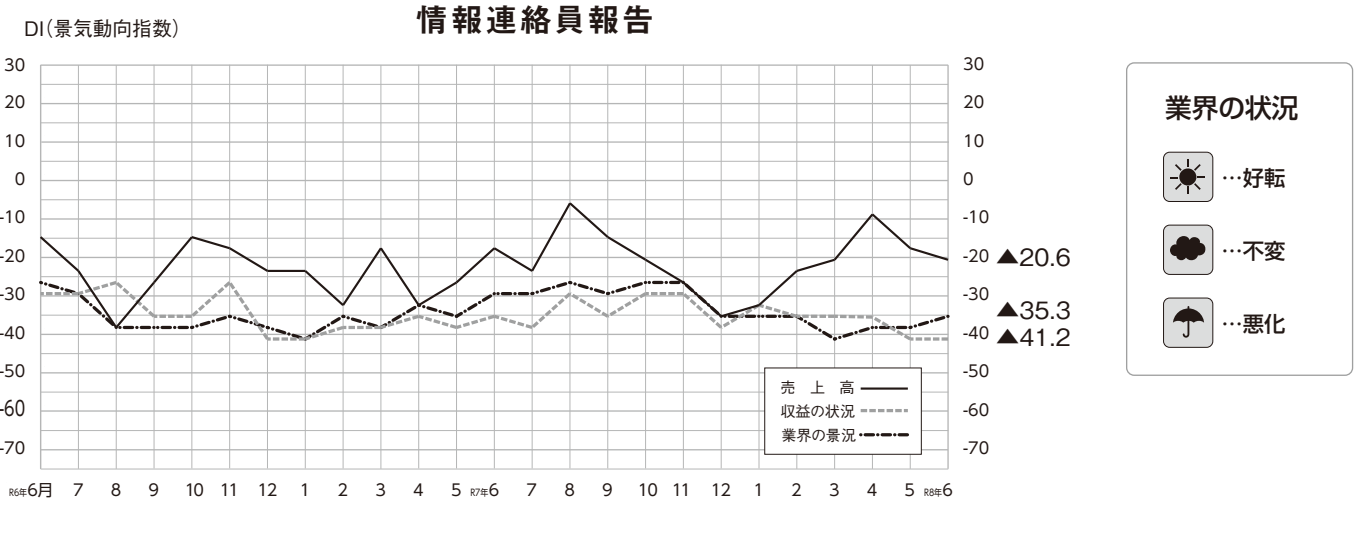




	電気機械器具小売	6月度は、全商品金額平均で前年比104%。スタンダードエアコン：前年比で128%（エアコンの2027年問題も要因）。4K・8Kテレビ：前年比101%。リフォーム金額：前年比102%。
--	----------	---

	テントシート	原材料の価格高騰分を販売価格への転嫁が出来つつあると思われるなか、6月1日より中東情勢により原油・ナフサ価格の上昇および石油化学製品の供給環境の悪化の影響で、全製品の大幅な価格改定（15%～25%）がありました。（品薄状態も続きそうです。）販売価格への転嫁に厳しい状況が続くと思われます。
	木製品素材生産	6月期の原木出材量は、雨の影響もあり入荷は減少気味。丸太価格については、値下がりが続いていた一部ヒノキも下げ止まりの状況となっており、全体的にはほぼ横ばいで推移。7月に入り、高知県では中旬頃には梅雨明けとなることから、原木出材量は増えてくと思われる。しかしながら、丸太価格については、製品の動きが相変わらず鈍いため、大きな変動は見込めない。なお、虫害が多少増えてきており心配されるところ。
	製紙(家庭紙)	紙製品全体として、前年同月比で前月と同様に販売金額は上回った。しかし、生産量及び販売量は下回った。また、品目別では、前年同月比で雑種紙は販売金額が上回ったものの、販売量および生産量はともに下回った。衛生用紙は、販売金額および生産量が下回った一方で、販売量は上回った。なお、中東情勢の緊迫化は和らぎつつあるものの、会員企業の経営には依然として深刻な影響が及んでいる。
	製紙(手すき和紙)	今月は、昨年度比で横ばいとなった。今年は世界情勢が悪化の状況で物価高騰が収まらない状態が続いており、今後さらに景況感を悪化させる不安な声があがっている。今後の見通しがつかめない状況が続いている。
	コンクリート製品	対前年同月比262.3%。新たに3組合員の加入により、前年度より出荷が多くなっている。前年度と比較すると公共事業費は横ばいであることから、組合員の増加による影響と分析している。また、中東情勢が不透明であり、今後の資材調達に関して、業界への影響が懸念される。
	刃物製造	当月は昨年の同時期と比べ、月中ごろには少し落ち込みは見えたものの終盤は盛り返し、ほぼ同じ成績となった。在庫の方もあまり変動はないが、問い合わせ等少し低調になっているように見える。
	機械団地	中東情勢が再び緊迫化するなか、石油化学製品や建設資材などの調達難や納期遅れの懸念が再燃しつつある。団地内の業況は足踏み状態である。
	船舶製造	作動油類やその他副資材等の調達は現状落ち着いています。
	珊瑚装飾品製造	6月度の取引額は、前年同月比で61%と前年を下回る結果となった。
	青果卸売	6月の取扱高は組合員全体で前年対比107.8%となった。先月に引き続き前年を上回ったが、全体を通して見ると好調とは言い難い。今年の1月から6月までの累計は98.3%となり、来月のお中元商戦に期待。
	生鮮魚介卸売	今月も売上金額が約1割減少した。台風の影響があり鮮魚の入荷が少ない週があったのも関係している。カツオとマグロは順調に入荷しています。
	各種小売 (四万十町)	6月の町内の景気動向は、物価高支援で四万十町が配布した家計応援商品券の利用がまだ続いており若干の上昇傾向にある。未だ情勢が安定せず、食料品などは値上げも控えており、不安を感じている事業者さんが多い。また、先月末に会員である事業主さんが亡くなられたため、後継がお店を続けるのか、続けたとしても当組合に残留するのか、返答を待っている状態である。
中古自動車小売	オークション相場が徐々に上がり始めており、これから先の不透明さはあるが在庫確保に重点を置いている。販売面では、先月同様注文や問い合わせ件数が増加している。	



商店街(高知市)	6月の駐車場利用台数は、前年同月比99.6%となり、前年同月より94台減少した。一方、料金収入については前年同月比103.7%となり、前年同月より311千円の増収となった。これは、定期収入の増加が主な要因と考えられる。また、人流カメラによる集計では、6月の来街者数は前年同月比4.3%減となった。恒例の土曜夜市が6月27日(土)からスタートし、台風の影響も懸念されたが、多くの来街者が訪れ、中心商店街にはにぎわいを見せた。さらに、6月はクルーズ船の寄港が7隻あり、昼間時間帯における中心市街地への回遊を後押ししたものと考えられる。
旅館・ホテル	宿泊、宴会共に前年並みに推移。夏以降のオンシーズンに期待。
旅行業	組合クーポン前年同月対比:76%。全旅クーポン合算後前年同月対比:74%。売上減少の要因は、先月同様(団体旅行の催行時期変更)と見通している。
IT事業	今月の売上は例年より低い結果となった。5月以降は大型案件が少なく、需要が落ち着きを見せているため、7月以降は入札参加や新規開拓、新商品開発などに注力し、増収に向けた取り組みを強化していきたい。
一般土木建築工事	引き続き、資材価格高騰や人件費の高騰による収益率の低下がみられる。
電気工事	組合員の施行する電力引込線工事は、前年同月比83.1%となった。特に高知中央地区が同56.4%となったものの、香長地区が同605%と大幅に増加した。
タクシー	実働1日1車当りの前年同月対比運送収入:100.9%、回数:99.5%、実働率:51.1%。運賃改定に必要な要請書の数を達成したことで指定された事業者が原価計算資料をこれから作成し、運輸局ではそれに基づき査定に入る。業界としては年内に値上げの認可を期待している。利用される皆様にはご理解いただきたい。



食品団地	消費者マインドの冷え込みなどもあり、売上は下げ止まり感が否めない。景況全体でも、あまり好転の兆しが見られない。中東情勢等によるエネルギー価格の上昇や為替変動による原材料価格の高騰にも気を払う必要もあり、先行きの不透明感が懸念材料になっている。
酒類製造	原料米の調達に関しては、令和8年産は前年産より価格が低下する見込みとなっており、製造コスト面では改善への期待が見られるが、昨年の主食用米高騰の影響により生産量が減少している銘柄もあり、供給面の課題が引き続き懸念される。販売面では前年並みで推移しているものの、物価上昇や価格改定の影響により消費者の節約志向は依然として強く、市場環境は厳しい状況が続いている。輸出については、引き続き堅調に推移している。
製材	資材供給不足が建築着工の遅れを招いているなど先行き不透明感が強い。
建具	ナフサ不足の影響が続く、組合員が一番使用する建材メーカーのアイカ工業のポリ合板、メラミン化粧板が値上がりした。建具金物メーカーの商品も値上がりが続いている。仕事量が減少しそうで心配している。
印刷	売上減、操業度低下。昨年は参議院選特需の影響もあり数字的には厳しかったが先月よりは改善の傾向も見られる。ただ全般的に県内は官公需、民需とも低迷。県外需要も一部の業種が低迷、他業種で一部好調な部分も見られたが厳しい状況が継続している。今後の動向としてよさこい高知文化祭2026の特需の話もでておりこれに期待したい。
生コンクリート製造	6月度の組合員工場の出荷量は対前年比 90.6 %であった。また、4月からの累計出荷量は80.5%で前月より若干多くなっている。地域的には、東部、嶺北、高幡地区は減少傾向にあるが、中央、中部、幡多地区は102～106%であった。
卸団地	外食、観光業界は閑散期の6月であるが、例年より低調な印象。中東情勢による経済への不安感や、物価高による買い控え等、低調を招く要因が多く、7月以降についても兆しが見えるというような状況では無い。仕入材料、ガソリン代等値上がりが続くため、厳しくなっている。
ガソリンスタンド	6月25日現在の国からの補助金は6.0円/L。元売り仕切り価格は毎週下がっているが、政府の補助金も下がっており、実質の仕入れはわずかながら毎週上昇している。市況が大きく変わることは今のところないと思われるが、もうすぐ政府の補助金もなくなるかもしれない。そうすると仕入れ価格の変動によりすぐに市況に影響がでるようになると思われる。
商店街(安芸市)	物価高や中東情勢による悪化が続くものの、一部軽減し改善が期待される。
商店街(四万十市)	人口減少による売上高の減少。エネルギー価格や資材の高騰による収益の悪化が感じられる。エネルギー価格上昇による補助金が市の方であり、大いに助かっている。
飲食店	台風や雨天の日が多く客足は遠のき集客は前年同月を下回った。売上高でも前年同月を下回り、物価高により販売価格が上昇していることを考慮すると収益は相当悪化している。加えて物価高に業界の価格転嫁は追いついておらず、業界の景況は悪化している。前年度同月に比べさらに物価は高騰。光熱費、仕入れ価格、人件費、すべての経費が上昇しているが、顧客離れによる集客の低下の懸念から業界の価格転嫁は十分ではない。
クリーニング	生活スタイルや衣類のカジュアル化へのシフト、インフレ傾向、物価高による消費者の節約志向の定着により、点数減が続いている。石油系溶剤など資材の上昇は続いており、一度は価格転嫁を行ったものの利益は減少している。一方、リネン・ユニホーム関係は好調を維持。ホテルリネンは人手不足が続いている。
一般貨物自動車運送	アメリカ・イランが覚書に署名し、原油価格は下落したが、6月の国内の燃料事情は月初37円程あった政府補助金が一細りしたため実質2円程度の値上げとなった。荷動きも鈍いようで組合員企業は厳しい状態が続いている。